令和３年度 第２回水道事業運営審議会

１　開催日時
令和３年１１月２４日(水) １０時００分～１１時３０分

２　開催場所
柏市千代田１丁目２番３２号
柏市水道部庁舎４階　４０１・４０２会議室

３　出席者
(1) 委員
堀田委員，山田委員，中島委員，阿部（秀）委員，三木委員，小宮山委員，會田委員，阿部（孝）委員，相田委員，大塚委員，新田委員，柗富委員，柳瀬委員
(2) 事務局
成嶋水道事業管理者，荒巻総務課長，安達給水課長，柳本配水課長，宇賀野浄水課長・水道技術管理者，他

４　議題
(1) 令和２年度柏市水道事業会計決算について
(2) 上下水道組織の統合と庁舎再整備の状況について

５　報告事項
(1) 水道料金のスマートフォン決済導入について

６　議事

(1) 令和２年度柏市水道事業会計決算について

質疑
（中島委員）
Ｑ．令和２年度は水道に限らず，コロナの影響を受け，市全体で右往左往した年度だったように思われる。コロナに対して水道部で行った対応や対策，令和３年度に向けて生かすべき工夫や改善点があれば，教えていただきたい。
Ａ．令和２年度は，コロナの影響が多分にあった年である。柏市の特徴として，

水道料金に逓増制を採用しているが，料金単価の高い大口需要者の水量が減った。柏市に限らず全国的にも大口需要者が多い自治体の収入は収益が減る傾向にあった。

一方で，ステイホームにより一般家庭で使う水量は増えて収入が上がる状況があった。幸いに柏市は，TX 沿線の北部整備を行っているので，令和７年度まで人口・世帯が増える傾向にある。転入した世帯に水道を利用していただくことで，基本料金の収入の伸びがあり，前年度並みの予算を達成することができた。水道料金全体としての落ち込みは回避できたので，柏市としては助かった点である。

その他として，コロナの影響で家計変動があり水道料金の支払いが困難な世帯への対応がある。これに対しては，国の要請もあり，水道料金の支払い猶予の申し出があったものについては丁寧に対応している。今後も引き続き丁寧に対応していき，福祉制度等の活用に結び付けられるものがあれば，関係機関とも連携していきたい。

また，今年度の水道料金の収入については，一部大口需要者の回復傾向があるため，慎重に見ながら来年度の予算の編成に取り組んでいきたい。

（三木委員）

Q．大口需要者の水量が減少しているという話があった。水道部でどのくらい把握しているのかは分からないが，店舗がなくなった等ではなく，自粛が解除されれば戻ってくるようなものなのか。

A．基本的に，停止や廃止の情報は聞いていない。状況が戻れば回復する類の大口需要者の減少であると認識している。実際，令和３年度上半期には大口需要者が戻ってきているので，状況が好転すれば戻ってくると認識している。

（三木委員）

Q．毎年言っているが，令和７年度をピークに人口が減っていくという話がある。厳しい状況が続くと，水道料金が上がることに繋がると思う。コロナによりリモートワークが多くなり，都内の会社が家賃の安いところに移転する等の動きがある。水道部だけでできることではないが，柏は都内よりも家賃が安いと思うので，積極的に「人がどうしたら来るか」を考えていってほしいと思う。今がチャンスだと思うので，「人口が減少します」ではなく，水道部からも市や市長に働きかけて，大きい企業が来るようなアクションがあった方が良いと思う。何もせずに「水道料金が上がりました」より良いと思う。

A．ご指摘の通りこのまま漫然としていれば，料金の上昇に繋がる。今は平均的な水道料金で黒字経営であり，この黒字が留保できている状況である。

なるべく今後も水道料金が変わらないようにやっていきたいと考えている。
　水道部のみで取り組むのは難しいが，市としても人口が減少すると税収が落ちてしまう等の影響がある。日本全体の人口が減るので，魅力的な市町村作りを目指し，個人の方や会社を意識して取り組んでいきたい。水道部としてもご指摘の通り意識してやっていきたい。

(2) 上下水道組織の統合と庁舎再整備の状況について

質疑
（堀田会長）
Q．上下水道の組織体制について，原案だと上水道の維持補修と下水道の維持管理は別の課で行うことになっている。審議会でも，上下水道で連携・統合が可能な業務はどういうものかという議論があったが，工務については両者の業務の性質が異なるため一緒にするのは難しいということか。例えば，管路の建設や維持管理は業務の性質が異なるが，一方で点検業務等は統合の可能性もあるかという話にもなった。現状を教えていただきたい。
A．性質上，外から見ると上水道と下水道は近しく見えるが，中から見るとそうでもないという状況がある。どちらも穴を掘って管を埋めるから近しいのではないかという感覚もあるかもしれないが，全く別物であると考えている。
　維持管理について，下水道の点検方法を現状把握していないが，道路を管理するという意味では道路部門・下水部門・水道部門等で連携できる余地はあるかもしれない。しかし，現時点で占用者である上水道と下水道でどのようにやれるかはまだ分からない状況である。

（山田委員）
Q．考え方について教えてほしい。今度下水道が入ってくることになる。水道については審議会でもビジョンを通して考えているが，収益的収支はバランス良く，インフラ整備等柏市の水が安定して供給されるような基本的な設計になっている。下水道が入ってきて，赤字経営が続くと厳しい。お金の配分や考え方，経営についてどうなっていくのか聞きたい。下水道には雨水も入るので，将来に向けての体制やお金の使い方について，分かる範囲で教えていただきたい。
A．統合ということでイメージが沸かない方もいると思う。下水道は大きく２つある。一つは汚水であり，これは料金（私費）で回収するもので，もう一つの雨水は，税金（公費）で賄うものである。この原則でやっているが，水

道と違って下水道は昔から公営企業としてやってこなかった等経過が違うので，汚水を料金で全額回収することができていない状況である。これは料金だけではないが，足りないところには税金を投入しており，毎年それを予算・決算で認めていただいている。

水道は黒字を確保していて下水道は赤字だが，上下水道が一緒になったら，水道の儲かっている部分が下水道にいくのではないか等の心配もあると思う。しかし，経理の仕方として，水道と下水道は別の財布で管理をすると法律で決まっているため，財布を一緒にすることはない。また，独立採算であるため，片方がプラスで片方がマイナスだから，プラスの方の留保をマイナスに充てるという考え方はない。それぞれで経営を考え，必要があれば各々料金の見直しを行うことになる。

短期間の事業ではなく１００年先まで続くようなものなので，それぞれの事業において中長期をみて経営していくことが大切である。料金を下げる場合はあまり反対されないと思うが，上げる場合には十分に議論をしてご理解をいただいた上でやっていかないといけないと考えている。別々の経理で独立採算でやっていくという考え方である。

（山田委員）

Ｑ．技術者についても心配がある。民間業者が工事などは担保してくれるが，水道部の技術者がだんだん少なくなり大変ではないかと思う。管理者が人事をまとめているが，技術的な面で，危機管理等，市で横断的に手当しないといけないものがあると思う。市から技術者を分けるべきという訳ではないが，上手いやり方等あれば助言をいただきたい。

Ａ．組織統合の説明のはじめに，背景として，人口減少や施設の老朽化を挙げたが，技術者の減少もある。柏市だけでなく全国的にも問題になっている。水道部の職員は，独自に採用しているわけではなく，市役所に入った職員が異動で配属になる。何年か経つと他の部署にいく。そうなると技術の積み上げや継承が難しいのは仰る通りで他の部署でも同じであるが，今回統合になってすぐに解決する問題ではないと考えている。これから，上下水道を両方経験した人が将来戻ることも考えられる。人事は上下水道局だけでなく市全体で考えるものであるので，人事部門に言っていく必要もある。また，それでも足りない部分については，全てが市役所の仕事とはせず，民間の力を借りたり，広域で他の市町村とも一緒に考えたりしながらやっていく必要がある。土木の技術者はもちろん経理の職員についても今後考えてやっていきたい。

（會田委員）

Q．DX という生産性向上の取り組みや SDG s について，水道部としてやっていること，今後市民にアピールを予定していること，検討していることについて知りたい。また，取りまとめはどこの課が主管でやっていくのかを教えてほしい。

A．DX については，まだ取り組めていない。SDG s については，全庁的に議論にもなってきているが，今回取りまとめた水道ビジョンの中では特に関係性は示していない。先進的な団体だと SDG s についてすでに整理しているところもあるので，次のビジョンの改定の際はもちろん関連性を整理していくべきであると考えており，広報もその観点を取り入れていくべきであると考えている。

（阿部（孝）委員）

統合は難しい要素が沢山ある。汚水は収益的収支が主になる構造が推測されるが，例えば庁舎が一緒になると減価償却費も恐らく按分という形になるのではないか。現場としては会計処理も含めて色々大変であると思う。利用させてもらう側からすると，外から見て上下水道の一体化は良いイメージで，嬉しいことでもある。何か一点でも良いので，統合することによってメリットが生まれるということを伝えてほしい。これからの要素が強いのでトータルでは難しいと思うが，市民に対して一つでも良いので良い点をアピールしてほしいと思う。

（堀田会長）

DX について，例えば調査段階で地盤地質の蓄積データなどがあるが，これは上下水道共有する部分が沢山ある。データを三次元化してデジタル空間上に再現し，調査や設計に生かすことが普及しつつある。これは上下水道で連携してできることの一つではないかと思う。

（中島委員）

Q．統合後の組織は，管理者がトップで総括していく立場になる。また，上下水道の財務・企画が一つとなって，経営企画課として運営していくことになる。一番気になるのは，下水道の場合は，母屋である市の本庁舎からもらう一般会計の繰入金が，膨大な額であること。他の企業会計と比べても大きな額であって，とても目立つ法定外繰入額となっている。下水道管の老朽化などの現実を考えれば，今後下水道を背負うことによって水道が大きな負担を強いられ，大変であるというのが率直な感想である。全体として経営改善を

考えないと立ち行かなくなるのではないか，と不安を感じている。

Ａ．下水道も管の老朽化や料金の減少についての問題が水道と同じようにあって，７年前くらいに国の方針もあり，経営状況が分かるようにやってきているが，足りない部分を料金で回収することはなかなか難しく，億単位で回収できていないのが事実である。市全体としたら，上下水道を分けて別の公営企業とするよりも一緒にやる方がメリットがあると考えている。これまできちんと議論してこなかったわけではないが，これを機にはっきりと下水道の状況もご理解いただきたいと思う。下水道経営委員会でも，最終的な答申では，実現可能なコスト削減策を講じた上でなお不足する収入については，早期に経費回収率１００％を目指すこととされている。市や市民全体のことを考えた場合には，一緒に取り組んでいく必要がある。料金の徴収を一緒にやっているので，馴染みやすいのではないか。ただ，おそらく下水道の経営状況を市民の方は殆どご存じないと思うので，料金のことは上水以上に御理解いただくのは難しいと思う。しかし，水という意味では，自然の水を利用して使って流して，という循環の一役を担っているので，先々大変な部分もあると思うが職員みんなで取り組んでいきたい。まずは現状を伝えてご理解をいただくしかないと考えている。不安はあるが，上下水道一緒になって良い事業を進めていきたい。

(3) 水道料金のスマートフォン決済導入について

質疑

（三木委員）

Ｑ．口座振替の利用者がスマートフォン決済に移行することは，なぜデメリットなのか。

Ａ．現在，処理費用が口座振替の方が安いので，スマートフォン決済が増えると支出が多くなってしまうため。

（三木委員）

Ｑ．口座振替は，郵送で手続きできるのか。

Ａ．市から書類を郵送し，それを返送していただく形で受け付けることが可能。

（三木委員）

Ｑ．書類は自分から申し出ないともらえないのか。インターネット等からもらえるのか。

Ａ．市のホームページで，メールをいただければ書類を送付するという案内を

掲載している。また，インターネット上でも，一部の銀行は口座振替の手続きが可能となっている。

（大塚委員）
Q．クレジットカード決済導入の見通しはあるか。
A．クレジットカード決済は，水道部から決済手数料をクレジットカード会社に払う必要がある。コンビニやスマートフォン決済よりも決済手数料がはるかに高いため，現時点では考えていない。

（堀田会長）
始まったばかりのサービスなので，またお知らせ頂ければと思う。

（4）全体を通して
質疑なし

7　傍聴
傍聴者なし